第3回文京区アカデミー推進協議会分科会（国際交流分野）
議事要旨

日　時　　平成27年7月7日（火）　18：30～20：30
会　場　　文京シビックセンター　大ホール会議室2
委　員　　会　長　　久松　佳彰　　（東洋大学教授）
　　委　員　　鈴木　秀昭　　（東京商工会議所文京支部　事務局長）
　　委　員　　森岡　隆　　（文京区国際交流フェスタ実行委員会　委員長）
　　委　員　　三谷　規子　　（文京区青少年委員会）
　　委　員　　金坂　吉雅　　（区民公募委員）
　　委　員　　佃　吉一　　（公益財団法人アジア学生文化協会　常任理事）
欠　席　　委　員　　黒木　美芳　　（区民公募委員）
事務局　　矢島　孝幸　（アカデミー推進部観光・国際担当課長）
　　熱田　直道　（アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長）
　　増田　一昌　（アカデミー推進部アカデミー推進課国際交流担当主査）
　　支援事業者　株式会社創建　氏原・本多
資　料　　「次第」および「第3回分科会の進め方について」
　　施策体系（案）

議　事

1．開会・会長あいさつ

会長より開会のあいさつが行われた。

2．議題

事務局より、前回までの分科会の振り返りについて、説明が行われた。資料「施策体系（案）」を用いて、施策体系（案）、分野別の目標、基本的な方向について説明が行われた。

久松会長　　今回、分野別目標を施策の対象ごとに2つに分けているが、その点はどうか。

鈴木委員　　分野別目標（1）が日本人、（2）が外国人を主たる対象にしていると思うが、外国人は観光でも訪れる。「暮らせる」という言葉づかいは限定的ではないか。「過ごせる」といった、観光客も対象にしている言葉づかいがよい。住民と同じぐらい、今後は観光客が重要になる。

事務局　　ご指摘のとおりだと思う。現行計画を踏襲していたので、その観点は加味できていなかった。

久松会長　　「過ごせる」に変更したい。分野別目標（1）の①は講座・地域活動などの事業に該当する。②は姉妹都市に関するもので、行政だけでなく、区民の活動をくみ上げ、活性化することも含めて考えたい。③はPRによって国際交流の敷居を下げ、交流を促そうというものだ。

佃委員　　国際交流フェスタは主たる事業だが、どれぐらい施策のなかで取り上げるのか。キーワードが盛り込まれていることが重要だと思う。

三谷委員　分野別目標（1）に関しても、区内の外国人が対象になっていることを明示した方が親切だと思う。

久松会長　前年度の事業で、外国にルーツを持つ子どもと日本人の座談会が開催されたと報告があったが、そのような趣旨の事業を示すことが大事だということだと思う。そうであれば、事業（案）として示すだけでなく、言葉で説明する必要があるだろう。

事務局　講座は（1）−①にも（1）−③にも入ってくると思う。交流の機会を通じて理解を進めるというように考えると、①と③の切り分けが難しいと感じている。

久松会長　講座はよいことだが、小規模なので理解の推進にとっては十分ではないと思う。講座に限らない展開を考えた方がよいと思う。

事務局　現行計画よりも整理されていると思うが、オリンピック・パラリンピックとの関連はどのように考えていくか。

久松会長　国際交流分野で取り上げる部分もあると思う。分野別目標（2）−①で、観光で訪れる外国人への対応を取り上げ、（1）−①でオリンピック・パラリンピックを機とした交流に触れるのだと思う。

佃委員　オリンピック・パラリンピックについては、その開催までにどのように変わるのかという観点から考えるべきだと思う。東京都、文京区、さらには、日本人はどう変わるのか。多くの場合、区の施策には期限を切った目標設定がないが、オリンピック・パラリンピックを目途としてとらえてはどうか。

久松会長　計画文中には、そのように取り上げていきたい。

事務局　オリンピック・パラリンピックはよい機会なので、うまく使っていきたい。オリンピック・パラリンピックが目的ではないという意見もあるが、これを機として、これまで取り組めなかった施策ができると思う。波には乗っていきたい。

佃委員　東京都から補助金も出るだろう。国際交流分野の予算の多くは自治体間交流に充てられると思うので、その他の部分にかかる費用を補助金で補うというように考えられないか。

久松会長　東京都の動きと連動する旨を書いておくようにしたい。

鈴木委員　分野別目標（1）と基本的な方向③は同じ言葉づかいになっている。③に「区民への国際交流の情報提供」といった内容を加えてはどうか。

事務局　ご指摘のとおりだが、アカデミー推進計画の性格上、学習機会の提供といった生涯学習の要素も入る可能性があると思い、情報提供では言葉として狭いと考えた。情報提供は全体に関わることなので、基本的方向のひとつにしてよいかが気になる。

鈴木委員　基本的方向は分野別目標の手段にあたると思うので、同じ表現になっているのはいかがかと思う。

久松会長　言葉づかいは検討するべきだと思う。

鈴木委員　ドイツとトルコの交流は、EUの中心国と台頭するイスラム圏の国という点でよいと思うが、英語圏との交流はないのか。ドイツに訪問したとしても、帰国後に活かしにくいのではないか。交流先として広げるのであれば、英語圏が望ましいと思う。

佃委員　ヨーロッパとの交流については、文化的なあこがれもあったのではないか。

新しい発想でアメリカの都市と姉妹都市提携を結んでもよいかもしれないが、ただ、予算が必要になることは気になる。

森岡委員　英語圏の都市と交流がないのは疑問だった。英語教育があるのであれば、それを活かす機会として交流をすればよいのではないか。

佃委員　自治体間交流は、一度始めると止めることができないが、オリンピック・パラリンピックをきっかけとして新しい都市との交流は、考えてみてもよいのではないか。

事務局　英語圏の都市との交流は認識として持ってはいるが、予算と時間がかかる上、ご指摘のとおり途中で提携を打ち切ることができないため、なかなか実現できない。今日示した体系案でも「姉妹都市」という言葉は使っていない。大枠の交流よりも、小さなレベルの交流を起こしていきたいと考えたからだ。提携を結ぶよりも、学校レベルや産業交流など、お互いの目的が合致するところで目的達成を目指して交流することが望ましいと考えている。

鈴木委員　事業（案）として示すということか。

事務局　交流をするとは書きにくいところではある。

森岡委員　商工会では交流事業を行っているか。

鈴木委員　やっていない。

三谷委員　文林中学校にメキシコから修学旅行生が訪れたらしいが、どこが窓口になっているのか。

事務局　校長の個人的なつながりだと聞いている。

佃委員　アジア学生文化協会に就労体験として北区の中学生が来たことがある。異文化交流となったが、子どもたちは前向きだった。そういう機会は大事だと思う。

三谷委員　学校教育との連携は可能性があるのか。

事務局　教育の事業計画との整合性を図る必要があるが、ハードルは高いと思う。

久松会長　学校での取組が、学校だけにとどまっていることはもったいない。学校での取組を掘り起こさないといけないのではないか。アカデミー推進計画が、学校での取組に直接関与するのではなく、取組を周知することから始めるとよいと思う。そうしないと区民啓発にもならないだろう。

佃委員　PTAなどの課外活動であれば、連携することもできるのではないか。

事務局　連携は図りたいと思うが、アカデミー推進計画が先走ることは避けたい。
アカデミー推進課では、学校教育の課題は把握できていない。外国人支援についても統括しているのは企画課だ。アカデミー推進課が全体統括を行っていない領域なので、やりにくい部分はある。

久松会長　庁内での情報共有は工夫してもらいたい。対外的な情報発信は、大学生にやってもらってはどうか。インターンシップとして実施すれば学生は単位がもらえ、取材先は広報になる。
分野別目標（2）についてはどうか。

鈴木委員　分野別目標（2）−①だが、区の歴史・文化の範囲は設定しにくいように思う。日本の歴史・文化の方がよいのではないか。その方が受け入れやすいと思う。

事務局　　外国人向けの生涯学習として考えていた。区の歴史・文化資源を活用したいと考えている。

鈴木委員　　考え方は分かるが、歴史・文化は区固有ではなく、背景まで含めると国という範囲になってしまう。

久松会長　　区の歴史・文化を学ぶのではなく、区の歴史・文化資源を活用して学ぶということではないのか。

佃委員　　外国人に何かを伝えようとするときには、出身国とのかかわりを示せるとうまくいく。それが理解のきっかけになり、学びや観光につながっていく。ドイツ人であれば、森鷗外は自国にかかわる人物として勉強することもできる。

久松会長　　新しい区の歴史・文化資源を掘り起こし、それを通じて外国人が親近感を持てるようにするとよいと思う。事業（案）として出してもらいたい。

事務局　　文京区のよいところを世界に知ってもらうことは、区の目的でもあるので、検討したい。

久松会長　　学生に資源の掘り起こしをさせ、ウェブページをつくってもよいと思う。

佃委員　　フェイスブックなど、個人の発信力が高まっているので活用できるとよいだろう。

久松会長　　留学生が掘り起こしに参加するのもよいと思う。

事務局　　分野横断的な目的にもなるのではないか。

久松会長　　大学生が活動し、範を示していけば、高校生や若い子どもたちも後に続くこともあるだろう。

3. 総評

座長より以下の3点で総評がなされた。

1. 次回の全体協議会に施策体系案を提出するにあたり、分野別目標（1）−③については、目標とは異なる言葉づかいに変更する。
2. 分野別目標（2）−①については「区」という言葉をとり、たとえば「区の歴史・文化資源を活用する」という言葉を用いる。
3. 分野別目標（2）−②は、外国人観光客を念頭に置き、「暮らし」を変更する。「生活」「滞在」をともに含む言葉を検討する。

4. 閉会

以上